

## 「ちょっと遊び心のある千代紙」

### 1 新撰模様紙

上から子、丑、寅、卯、辰、巳、午、未、申、酉、戌、亥と十二支それぞれに関係のある絵柄がデザインされています。

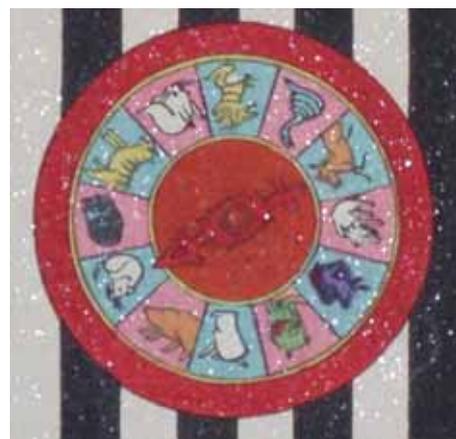
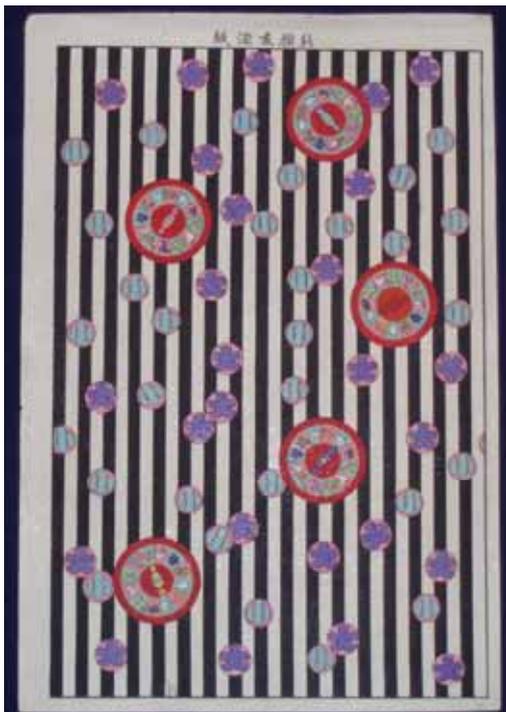


例えば、これはネズミと打ち出のこづち小槌

ネズミは大黒さんの使いといわれ、打ち出の小槌は大黒さんの持ち物です。それを知っていればこの絵を見ただけで組み合わせの意味が「なるほど～」とわかるわけです。

### 2 新撰友染紙

十二支が描かれた円盤の針はネズミを指しています。ネズミ年に発行されたものでしょうか？「大」と「小」は、大の月、小の月(1ヶ月の日数が31日に満たない月)のことを表しているようです。



十二支が描かれた円盤の針の先は「ねずみ」。下地のきらきら光っているのは雲母です。

### 3 しん形ほうづきの千代紙

ほおずきを人に見立て、コマ回しや竹馬など子供の遊びがデザインされています。



竹馬の様子



輪回しの様子



コマ回しの様子

### 4 ふの字尽くし千代紙

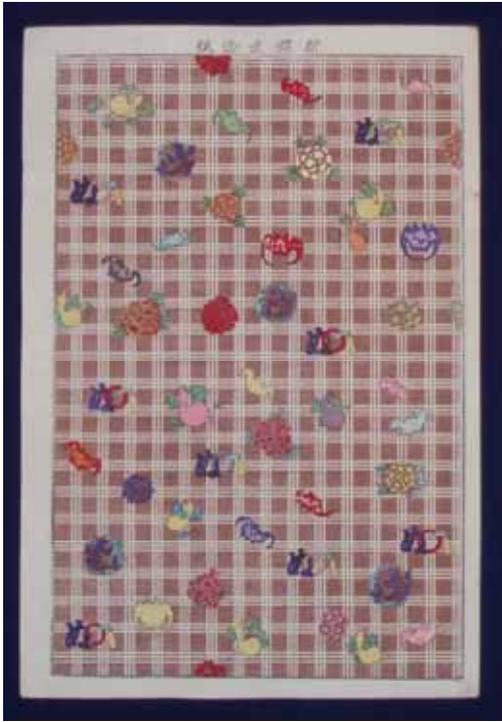
ここに描かれているものは、富士山、船、筆、フグ、二又大根などなど頭に「ふ」のつくものばかりです。子供たちが絵を見ながら物の名前を覚えたのでしょうか？



## 5から9は歌舞伎に関する文様です

### 5 新撰友染紙

三筋格子を始め、「かまわぬ」「牡丹」「蝙蝠」「瓢箪」「荒磯文様(波頭に飛び上がる鯉)」いずれも市川家及び演目に関する文様です。



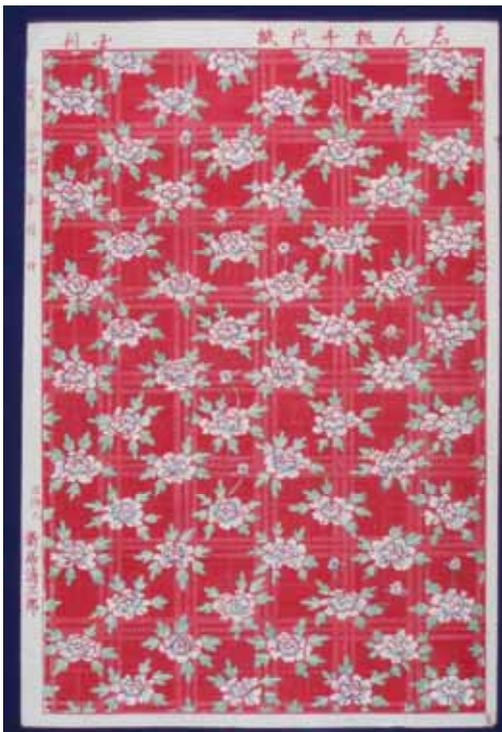
かまわぬ

「鎌」「輪」「ぬ」で「かわまぬ」と読ませます。

7代目團十郎(1791～1859)が累かさねの与右衛門で使って流行した文様。それ以前も江戸初期に町奴の間で流行していた文様でもあります。

### 6 新板千代紙

三筋格子に牡丹文で市川團十郎に関する文様です。デザインしたのは絵師の歌川国利(弘化4年～明治32年)です。



三筋格子

三升格子とも言われます。三升は、入れ子になった三つの枡形で、市川團十郎家の家紋。三筋格子はこの三升に由来する文様です。

## 7 新版千代紙(半四郎鹿の子)

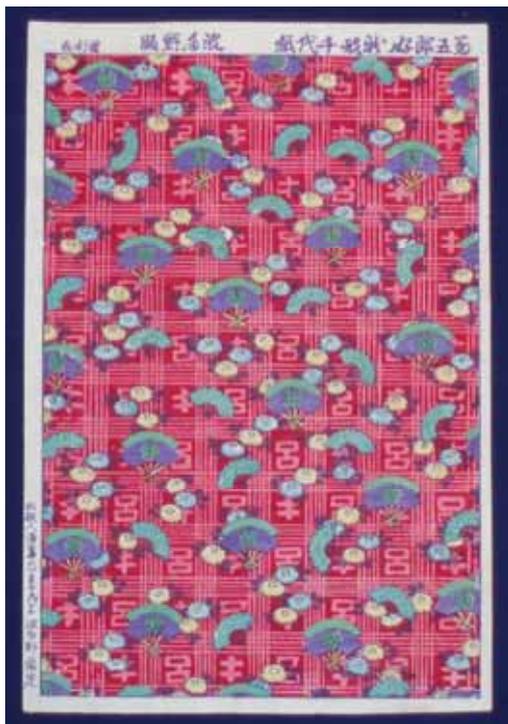
五代目岩井半四郎が文化6年(1809)、歌舞伎<sup>そのむかしこいのえ どぞめ</sup>『其往昔恋江戸染』で八百屋お七を演じたとき、浅葱色<sup>あさぎ</sup>(薄い藍色)の麻の葉鹿の子の衣装を着て人気を博しました。これ以降、麻の葉鹿の子は「半四郎鹿の子」と呼ばれるようになりました。



矢印のところ 着物の襦袢が半四郎鹿の子になっています。  
(「お七 岩井半四郎」豊国画)

## 8 菊五郎好み新形千代紙

三代目尾上菊五郎にちなんだ文様。



### 菊五郎縞

縦4本横5本(ここでは縦も5本になっています)の縞に「キ」と「呂」が入っています。「キ」「九(縦と横の縞の合計)」「五(横の縞の数)」「呂」で「きくごろ」と読ませます。